

茶の湯教養講座

第86期講座ガイド
2026年4月～2026年9月

[講座内容]

- ▷ 稲垣休叟『松風雑話』を読む
- ▷ 茶の湯の〈学〉を深める講座
- ▷ 茶の湯初心者进行教える先生のための講座
- ▷ 茶入のすべて

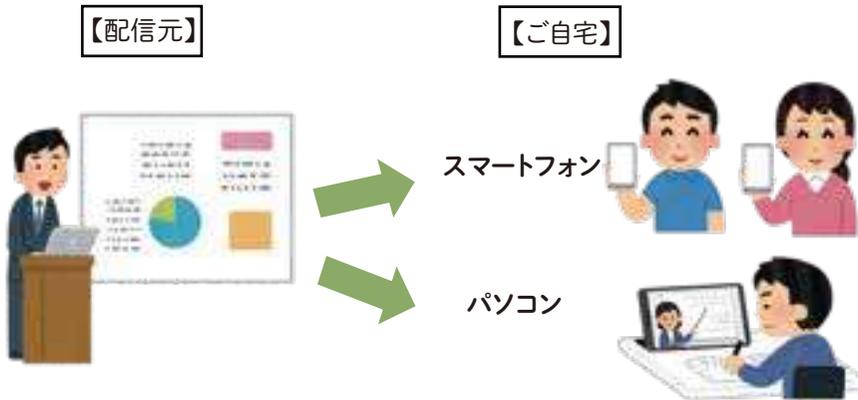
オンライン
開催!

講座受講方法

当講座は、ご自宅からインターネット回線を利用して視聴頂く形式で行います。
配信・視聴には「Zoom(ズーム)ウェビナー」のシステムを利用します。
視聴方法は以下の2通りです。

方法① ライブ配信

各講座の開催日時に、生配信を視聴する方法です。



方法② 録画配信

ライブ配信後、**2週間**以内であれば好きな時に何度でも録画視聴ができます。
お願い: 配信内容の録画や受講を申し込まれた方以外への公開は固く禁止致します。

受講に必要なもの



初めての方もお気軽にご相談ください。 平日9時～17時 ☎03-5261-3111

①インターネット環境



インターネットに接続できるかご確認ください。

【確認方法の例】

- ・Yahoo!やGoogleなどを開いて検索することができる
- ・Youtubeなどの動画を視聴できる など

②パソコン、スマートフォンもしくはタブレット端末(iPad)等



10年程前の古い端末は使用できない場合があります。
スマートフォン・タブレット端末の場合は、Wi-Fi環境での
視聴をお勧めします。

③メールアドレス



- ・@urasenke.or.jp
- ・@zoom.us

上記からのメールを受信できるようにしてください。

《茶の湯茶書》講座 「稲垣休叟『松風雑話』を読む」

テキストを入口に、さらに茶の湯の世界がひろがります。
茶の湯研究の第一人者による楽しい講義が魅力の講座です。

第1回	4月15日(水)
第2回	5月13日(水)
第3回	6月17日(水)
第4回	7月15日(水)
第5回	9月 9日(水)

■時 間：13:30～15:00

■受講料：15,400円
(全5回・消費税込)



江戸時代に入ると、茶道逸話の書が次々に出版されていく。その最初は久須見疎安の『茶話指月集』だったわけだが、八十数話が収められているだけであった。次いで、近松茂矩によって『茶湯古事談』が編集されて三百五話に膨らみ、『茶窓閑話』と改題して出版された。

一方、今回取り上げる『松風雑話』の筆者稲垣休叟は、『茶道筌蹄』の著者としても知られている。『茶道筌蹄』は江戸時代を通じた一番のベストセラーの茶書であり、千家を学ぶ茶人の必読の書であった。休叟は膨大な茶書を読んで『茶道筌蹄』を著述したのだが、その中から、利休や宗旦をはじめとする多くの茶人の数寄雑談を編集したのが『松風雑話』である。

大変興味深い逸話が沢山収録された本書を、受講の皆様と共に楽しく読んでいきたいと思っている。

講師：
茶道資料館顧問

筒井 紘一

1940年福岡県生まれ。早稲田大学文学部東洋哲学科卒業。同大学院文学研究科修士課程日本文学専攻修了。文学博士。現在、茶道資料館顧問、皇学館大学非常勤講師。

著書に『茶書の系譜』(文一総合出版)、『茶人の逸話』『懐石の研究』『茶書の研究』『茶人 交友抄』『南方録(覚書・滅後)』『利休の逸話』『茶道具は語る』『記憶に残る茶事を催すコツ』『現代語でさらりと読む茶の古典茶窓閑話』『知って得する茶道のいろは』(共に淡交社)など多数。

《茶の湯文化学》講座 「茶の湯の〈学〉を深める講座」

茶の湯の知識を広げるとともに、
その背景にある諸文化との関わりを多角的に探究し、
表層を超えて理解を深めることを目指す講座です。

■時間：13:30～15:00
■受講料：15,400円
(全5回・消費税込)

第1回 4月21日(火)

宋代の喫茶文化と諸問題

東京学芸大学名誉教授 高橋 忠彦

中国の茶文化は、唐・宋・明清の各時代で、製茶法も喫茶法も異なっています。なかでも宋代の茶文化は、茶の湯の発展に直接大きな影響を与えているため、十分に把握しておく必要があります。今回は、宋代の茶文化を概観し、関連する話題を提供したいと思います。

第2回 5月19日(火)

近現代の工芸と茶の湯のうつわ

国立工芸館館長 唐澤 昌宏

近代以降、日本の工芸の発展を支えた一つに茶の湯のうつわがあります。個としての想いを造形や意匠で表現する「作品=茶の湯のうつわ」や使い手からの「見立てのうつわ」など、時代によって移りゆく茶の湯のうつわを紹介します。

第3回 6月 9日(火)

「豊臣兄弟」の茶の湯

國學院大學文学部講師 竹本 千鶴

大河ドラマで注目が集まっている豊臣秀吉と弟の秀長。この講座では両人が熱中した茶の湯のかたちや愛用の名物を中心に、主君であった織田信長や側近茶道の千利休らとのエピソードも交えてお話ししていきます。

第4回 7月21日(火)

釉薬の不思議

東京藝術大学美術学部工芸科准教授
(公社)日本工芸会正会員 椎名 勇

釉薬の基本的な仕組みと、釉薬が陶芸作品の中でどのような目的で、どう使われているのかを大学教員・陶芸作家の両視点からお話できればと考えております。

第5回 9月15日(火)

香と茶の湯—源氏香を中心に—

香道御家流宗家 三條西 堯水

茶道・華道と共に三大芸道の一つと言われる香道は、前記二つの芸道に比べ一般には知られていません。しかしその香道で行われる組香の一つ、源氏香は多くの人に名前が知られています。そのような香道、組香について、そして源氏香についてご紹介します。



茶書



文化学



概論



美



申込方法

《茶の湯概論》講座

「茶の湯初心者を教える先生のための講座」

稽古を始めて間もない人を指導している教授者を主たる対象に、茶の湯に関わる様々な分野の基礎的な知識を確認し、日頃の指導の一助とすることを目指す講座です。

■時間：13:30～15:00
■受講料：15,400円
(全5回・消費税込)



第1回 4月16日(木)

利休形・利休好み

今日庵業跡 町田 宗隆

茶の湯の世界で長く継承されてきた「好み物」。本講座では、利休居士存命中の「宗易形」と、没後に展開した「利休形」「利休好み」がどのように形成され、受け継がれていったのか、その流れを丁寧に整理します。



第2回 5月14日(木)

プランターで育てる茶花入門

株式会社近江庭園代表取締役 寺下 真司

茶花を自ら育てる喜びを、限られたスペースでも。プランターで実践できる茶花の選び方、四季折々の管理方法、茶室で使える一輪を育てるまでの具体的な方法を、庭づくりのプロがわかりやすくお伝えします。



第3回 6月11日(木)

岡倉天心の生涯と『茶の本』

茨城県天心記念五浦美術館館長
茨城大学名誉教授 小泉 晋弥

今年『茶の本』が出版されて120年ですが、現在でも日本文化を紹介する書として揺るぎない評価を得ているベストセラーです。岡倉天心がそこで主張したかったことは何だったのか。50年の生涯を辿りながら確認します。



第4回 7月16日(木)

茶道具の扱いと楽しみ

清昌堂やました店主 山下 寛一郎

長年にわたり様々な茶道具を扱ってきた経験をもとに、大切な道具を汚さず壊さないよう、大事に守る心構えと扱い方をお伝えします。その道具を生かし、お客様により楽しんでいただける茶会を考えてまいります。



第5回 9月10日(木)

社中で学ぶ茶席の禅語

満願寺住職
臨済宗建長寺派布教師会会長 永井 宗直

茶席で出会う掛物や道具の銘に息づく禅語は、唐宋の禅者の闊達自在な対話から生まれました。何事にもとらわれず、流されず、平常無事に生きる心を今に伝えます。生き活きとした機(はたらき)と深い味わいを感じながら、禅語の魅力をお楽しみください。

《茶の湯の美》講座 「茶入のすべて」

茶の湯において欠かすことのできない「茶入」。日々目にしている茶入をあらためて深く見詰め、その魅力と本質を味わう講座です。

■時 間：13:30～15:00
■受講料：15,400円
(全5回・消費税込)

第1回 4月23日(木)

茶入の歴史

筑波大学非常勤講師
元土浦市立博物館副館長 木塚 久仁子

掌にすっぽり収まる小さな焼物ですが、茶人たちは、茶入に銘という魂を与えて愛し、守り伝えてきました。小さな茶入の大きな魅力と豊かな歴史を紹介します。

第2回 5月21日(木)

瀬戸茶入—考古学の視点から—

元愛知県陶磁資料館館長補佐 井上 喜久男

瀬戸茶入は江戸時代から大名物・中興名物の評価及び窯分け・手分け分類が行われてきましたが、考古学による陶磁史編年とは大きく食い違っています。これまでの考古学調査によって明らかにできた新知見に基づいて製作年代を考察いたします。

第3回 6月18日(木)

茶入の制作

黒田藩御用窯高取焼味楽窯 15代 亀井 味楽

高取焼の代表作品『肩衝茶入』について、伝統技法の薄造りを中心とした造形法から焼成までの工程を写真とともに解説します。完成に至るまでの苦心や十五代独自の技法にも触れ、『撫肩』『文琳』『茄子』など多彩な茶入も併せてご紹介いたします。

第4回 7月23日(木)

仕覆・付属品

五島美術館主任学芸員 佐藤 留実

名物の茶入はどのような付属品とともに伝来してきたのでしょうか。仕覆や牙蓋、挽家、包み裂に至るまで意外にも多い付属品を通して、茶入を守り伝える心やそれらの愉しみ方を紹介します。

第5回 9月17日(木)

茶入の鑑賞—形姿・銘・伝来

神戸松蔭大学教授
茶道資料館特任学芸員 橘 倫子

茶入は、器形や釉薬、胎土など、やきものとしての魅力だけではなく、付属品、銘、伝来など、複数の要素が加わって一作品として評価されています。直接的な茶入の見どころに加え、命銘の由来となった古歌や逸話、伝来など、背景にある様々な鑑賞ポイントも紹介します。



茶書



文化学



概論



美



申込方法

申込みから受講までの流れ

STEP 1

お申込み

- ①希望講座の送信
メール、FAXもしくは申込みフォームよりお申込みください。(記載事項は裏表紙をご覧ください)
- ②申込受付
フォームでお申込みの方は即日、
メール、FAXでお申込みの方は5日以内に
【受付完了】メールが届きます。
- ③お振込み
メールの内容を確認し、
受講料をお振込みください。

振込先情報

銀行名 : 三菱UFJ銀行
支店名 : 京都支店(431)
口座種別 : 普通預金
口座番号 : 4019034
口座名義 : 一般財団法人今日庵
ザイ)コンニチアン



STEP 2

ライブ配信(生配信)の視聴方法

- ①開講日1週間前
毎月、開講日の約1週間前にZoomから
【事前登録完了】メールが届きます。
- ②開講日当日
【事前登録完了】または講座前日の【リマインダー】メールの
リンクからZoomウェビナーに接続してご視聴ください。
(@zoom.usからの受信ができるようにして下さい。)

難しいところは事務局がサポートします。



STEP 3

録画配信の視聴方法

- ①ライブ配信終了後
毎回、受講者全員に録画視聴の
ご案内メールが届きます。
- ②録画配信の視聴
2週間以内であれば、何度でも視聴できます。

・復習したい!
・見逃してしまった!
そんな時にご活用ください。



受講上の注意

- ①一旦納入いただいた受講料は原則としてお返しできません。
- ②配信内容の録画や受講を申し込まれた方以外への公開は固く禁じます。
- ③録画配信(2週間)はいかなる事由でも延長いたしかねます。
- ④講師の病気や受講者が一定数に達しない場合など、開講を見送る場合があります。
開講しない場合は、開催日の1週間前までにご連絡いたします。
- ⑤ご本人の都合により当該講座を視聴できなかった場合、他講座への振替はできません。
- ⑥主催者側の都合により、申込時にお知らせした日時をやむを得ず変更することがあります。
この変更により当該講座を受講できなくなった方は、代替の講座を振替受講することができます。

問合せ・申込み先

一般財団法人今日庵 東京出張所

〒162-0062

東京都新宿区市谷加賀町2-5-23

TEL:03-5261-3111 (平日 9:00~17:00)

FAX:03-5261-3112

E-Mail:kouza@urasenke.or.jp

<http://www.urasenke.or.jp/kokusaichado/aoyama>

【講座申込】

必要事項をご記入の上、FAXもしくはメールでお送りください。
 必要事項を直接メールの本文に記載いただいてもかまいません。
 FAX:03-5261-3112 メール:kouza@urasenke.or.jp



こちらのQRコードからもお申込みができます→

フリガナ ①お名前		
②淡交会会員番号(お持ちの方)			
③生年月日	西暦	年	月 日
④メールアドレス			
⑤郵便番号	〒	—	
⑥ご住所			
⑦電話番号(日中連絡可能な番号)	()		
⑧申込希望講座(「申込講座」欄に○をつけてください)			
講座名	受講料	申込講座	
茶の湯茶書「稲垣休叟『松風雑話』を読む」	15,400円	<input type="checkbox"/>	
茶の湯文化学「茶の湯の〈学〉を深める講座」		<input type="checkbox"/>	
茶の湯概論「茶の湯初心者进行を教える先生のための講座」		<input type="checkbox"/>	
茶の湯の美「茶入のすべて」		<input type="checkbox"/>	
≪通信欄≫			

【講座スケジュール】

講座名	曜日	開始時間	4月	5月	6月	7月	9月
茶の湯茶書	水	13:30	15	13	17	15	9
茶の湯文化学	火		21	19	9	21	15
茶の湯概論	木		16	14	11	16	10
茶の湯の美	木		23	21	18	23	17